様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４３０３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５３１３８

研究課題名（和文）中国における愛情の歴史―社会学的・文化史的研究

研究課題名（英文）History of Love in China

研究代表者
川田　耕（Kawata, Koh）

京都学園大学・経済学部・教授

研究者番号：５０２９８６７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,600,000円、（間接経費）　480,000円

研究成果の概要（和文）：中国において、愛情という他者を慈しむ感情が、社会的・文化的諸変動のなかで、どのように表現され経験されてきたのかを、社会学的・心理学的・文化史的に探求し記述をした。なかでも「百鳥衣」「十兄弟」「白蛇伝」など近世中国を代表する民間の物語を分析することによって、大帝国ならびに家父長制的な家族との力関係のなかで展開する、親子間・同性間・異性間の愛情の精神的な経験の内実を示すとともに、そうした伝統のなかで、現代の中国文化圏において「親愛の文化」が変容しさらに深化していったさまを、香港映画を題材として示した。これらの研究によって、「中国における愛情の歴史」を包括的かつ学際的にとらえる道筋を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In China, so many poetry, novels, theatrical plays and folk tales have expressed a great variety of expressions of love. From a sociological and psychological point of view, this study, by examining these expressions and their transformations, tries to find the ways to understand Chinese people's experiences of love. We, above all, focusing on tales spreading out among folks in early modern China, including 'Hundred Birds Costume', 'Ten Brothers', and 'the Legend of the White Snake', search the dynamics of social structure and cultural expressions of affection for close person, such as parents, children, friends and lovers. In addition, through analyses of modern Hong-Kong films, including Ann Hui, Stanley Kwan and Mabel Cheung Yuen-Ting's films, we show the process of development of 'culture of intimacy' in modern Chinese society. On the whole, this study provides the ways to understand the long history of love in China.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：愛情の歴史　中国の民話　中国の演劇　香港映画　白蛇伝　十兄弟　百鳥衣　文化の社会学

１．研究開始当初の背景

（１）愛情についての心理学的な研究は盛んであるが、愛情の歴史的・社会学的な研究はなおざりにされてきた。むろん、欧州には「心性の歴史」の伝統があって、D・ルージュモンやP・アリエスの心性史的な研究を初めとする、親子・異性・同性間の愛情の変遷についての研究はある程度蓄積されており、文化人類学者たちによる、各地の文化の性行動や婚姻についての調査・研究も相応にある。しかし、東アジアにおいてはそうした観点からの研究は未だに乏しく、C・メイエール『中国女性の歴史』(1986年)や張競『恋の中国文明史』(1993年)などが目立つ程度で、いずれもが女性史や恋愛史であるなど、愛情そのものの歴史はいまだに本格的には研究されていないのが現状である。

（２）　本研究の担当者は、そうした学問的状況をふまえ、「東アジアにおける愛情の歴史」をライフワークとすべく、ここ二十年近くにわたり研究してきた。まず、日本における愛情の歴史を研究し、とくに近世日本における新たな国家的社会秩序の形成のなかで愛情のありようを中心とした心性の根本的な変容があったことに着目し、その研究成果を博士論文「近世演劇の社会学的考察」（京都大学、2005年）としてまとめ、『隠された国家 ―近世演劇にみる心の歴史』（2006年）として刊行した。さらに、ここ十数年ほどは、中国文化圏における愛情の歴史に研究テーマを広げ、まず現代の香港映画に表現された愛をめぐる情動のありようを、疑似国家である香港社会の変動と重ねあわせながら詳細に分析し、さらに近世・近代の中国における演劇・民間伝承・小説などの収集・読解も開始していた。

２．研究の目的

本研究の目的は、長い歴史をもつ中国において、愛情という他者を慈しむ感情がどのようにして、社会的・文化的な諸変動のなかで表現され発展してきたのか、そしてそこにいかなる精神的な経験があったのかを、演劇・民間伝承・小説・詩歌・映画などの文化的産物の分析を主要な方法として、社会学的・文化史的に探求し記述することである。なかでも中心的なテーマとなるのは、近世の中国における、大帝国と家父長制的な家族・親族システムなどの社会的構造のなかの力関係において展開する、親子間・同性間・異性間の愛情の文化の持続と変容であり、さらにそれが清末以降今日にいたるまでの社会の近代化・現代化のなかで、どのように傷つき損なわれていったのか、またにもかかわらずそれがどのようにして回復し変容していったのか、という心理的・文化的・社会的な過程である。本研究の目的は、そうしたことをあきらかにしていくことによって、全体として「中国における愛情の歴史」を包括的にとらえていく道筋を示すことにある。

３．研究の方法

本研究の方法は、担当者が、文化の社会学・歴史心理学などの様々な人文研究の方法をふまえてこれまで行ってきた研究方法を踏襲し発展させながら、当該社会における、演劇・民間伝承・小説・詩歌・映画などの様々な文化的表現を、同時代の社会的状況や文化的文脈と重ね合わせながら分析することによって、その文化を生きた人々の精神的状況をあきらかにする、というものである。具体的には、とくに近世中国における民間伝承系の物語、小説、演劇などの様々な文化的産物ならびに現代香港の映画の内容を分析的に読解し、それを私的領域の拡大や社会秩序の流動化などの同時代の社会的・文化的変動と重ね合わせることで、人々の価値意識や無意識的な願望を示そうとするものである。

４．研究成果

（1）近世の中国における皇帝を殺す物語からみる、近世中国における反国家的・反権力的志向と親密な関係を重んじる文化の歴史；

近世の中国にあっては支配的な規範や価値を侵犯し逸脱するような、秩序転覆的な物語が多く生まれ各地の民衆に広がっていた。「四大奇書」と「四大伝説」のいずれもがそうした秩序転覆性を多かれ少なかれもつが、民話においては、庶民が皇帝を殺してしまう大胆不敵なものすら広く伝えられてきた。本研究では、そうした秩序転覆的な物語が近世中国において広く語り継がれ好まれてきた、歴史的・社会学的・心理学的な意味を明らかにするために、皇帝ないし王を殺す物語である、「眉間尺」、「十兄弟」、「百鳥衣」の三つの系統の民話を取り上げて、それらのもつ物語的な特質と精神的な意義を、とくに欧州の神話研究者がいうところの「英雄神話」型の物語との異同と日本との比較を手がかりとして考察し、論文「皇帝を殺す ― 中国における至高者を殺害する物語についての予備的研究」としてまとめた。とりわけ、日本に渡った「百鳥衣」系の物語が決して「殿様」を殺さないことを一つの手がかりとして、反国家的・反権力的・反儒教的であるとともに身近な人々との絆を重んじる近世中国の民衆の心性の特色を明らかにした。

（2）蛇の表象および「白蛇伝」にみる、近世中国における愛情の文化の発展；

①まず、古代から近世にかけての蛇の表象を手がかりにして、女という存在への人々の畏怖と恐れを跡づけた。古代にあって蛇は人類の様々な想像力を喚起してきたが、中心にあるのは人を誘惑し、騙し、命を脅かす、おぞましくも蠱惑的な女性的なイメージであった。中国でも、古代には蛇身の女媧と伏羲が人間創造の神とされたが、天ならびに皇帝を象徴する龍と分化して、中世になると蛇はもっぱら得体の知れない化物となって、生殖と死の不気味な象徴となったことを示した（学会発表「蛇の中国文明論」）。

②つぎに、近世に入り社会の国家化が進み文化が洗練されていくなかで、いわゆる「白蛇伝」が生み出されていったのだが、この多様に変移していった物語とその周辺を分析することによって、新たな感受性と価値が形成されていく社会的・文化的・心理的な過程を明らかにした。とりわけ、「白蛇」が邪悪な排除すべき対象から一途で道徳的な主体へと変貌していく長い過程に注目して、国家的・男権的な秩序と性愛的な関係性とが対立したものとされるなかで、男女相互の欲望のありようが洗練され、親密さを感情と価値の中心とする新たな私的領域が生み出されていったことを示した。こうした、中国における蛇をめぐる形象と物語の変容・発展には、父権的な社会・家族構造とイデオロギーの裏側に育った、性愛と生命の流れへの民衆的で非言語的な創造の力がみられるのであって、そこに近世中国社会の近代への胎動が見てとれる。さらに、日本との比較史的な観点もまじえ、さらに近世だけではなく民国期以降の映画や小説などの分析も行い、近世から近現代にかけての「白蛇伝」にみられる、信頼と不信の間でゆれる、より現代的な愛の心性史の一端も示した（研究会発表「「白蛇伝」とその周辺をめぐる解釈学的探求」ならびに論文「「白蛇伝」にみる近代の胎動」）。

（3）現代の香港映画にみる「親愛の文化」の研究；

（1）および（2）で示したように、中国では伝統的に、家族や友人あるいは愛人など、親しいものとの間の関係を重んじる文化、いわば「親愛の文化」が発展してきたが、その現代的な諸相を、とくに現代の香港の映画を題材として研究した。とくに、1990年代からゼロ年代にかけての、返還前後の香港で撮られた映画群の中から、最も創造的な挑戦をし

てきた５人の映画作家、なかでも陳果（フルーツ・チャン）、張艾嘉（シルヴィア・チャン）、許鞍華（アン・ホイ）、關錦鵬（スタンリー・クワン）、張婉婷（メイベル・チャン）を取り上げ、彼らの主要な、しかし必ずしも日本では知られていない作品を個人史的・映画史的文脈のなかに位置づけながら、それぞれ詳細に分析を行った。そのことを通して、それぞれの作家の精神的な葛藤と変貌と成熟の内実を跡づけるとともに、それらの内実をさらに社会的・文化的・心理的に流動化していく疑似国家＝香港社会の諸状況と重ね合わせていくことによって、人間の様々な欲望のかたち、とりわけ「愛」という人間存在の深部に根ざす欲望の諸相をとらえようとする、社会学的・人間的な研究を行った（『愛の映画』）。

これら、（１）、（２）、（３）の研究をあわせて、愛情という他者を慈しむ感情が、中国社会の長く緩やかな発展のなかで表現され経験されてきた、社会学的・文化史的な大きな流れを示すことができたと思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２本）

①川田耕「「白蛇伝」にみる近代の胎動」『京都学園大学経済学部論集』（査読無）、23巻2号、35～57頁、2014年3月

②川田耕「皇帝を殺す ― 中国における至高者を殺害する物語についての予備的研究」『京都学園大学経済学部論集』（査読無）、23巻1号、33～50頁、2013年9月

［学会発表］（計２点）

①川田耕「「白蛇伝」とその周辺をめぐる解釈学的探求」、中国文芸研究会、2013年12月、関西学院大学

②川田耕「蛇の中国文明論」、日本社会学会（第86回大会）、2013年10月、慶應義塾大学

［図書］（計１冊）

①川田耕『愛の映画 ― 香港からの贈りもの』大隅書店、2011年9月、総頁数329頁

［その他］（計４点）

①「書評に応えて」『ソシオロジ』58巻２号、132～137頁、2013年10月

②「石田梅岩の普遍主義 ― 閉ざされた国家的秩序の中から」片岡龍・金泰昌編『公共する人間２ 石田梅岩』東京大学出版会、１～21頁、2011年10月

③ブログ「東方文藝私記」
(http://fareastcl.exblog.jp)

④ホームページ「川田耕のホームページ」
（http://www.kyotogakuen.ac.jp/~kawata/index.html）

６・研究組織

研究代表者

川田　耕（Kawata Koh）

研究者番号:50298676